

trivia ■皮膚科のトリビア■ 144

本欄は、浅井皮膚科クリニックのホームページに連載されている「皮膚科のトリビア」を紹介させていただくものです。学会・研究会などで見聞きしたことをその都度まとめ、連載されています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

PVL陽性MSSAによる再発性皮膚感染症

第867回日本皮膚科学会東京地方会から(平成28年7月9日)

手掌と手指の圧痛のある紅斑・硬結で来院。初診の1年前にタンザニアで足縁に外傷を負い、発赤を伴った。その後数カ月に一度の頻度で、四肢を中心に同様の発疹を繰り返している。細菌培養から、メチシリン感受性黄色ブドウ球菌(MSSA)が陽性で、Panton-Valentine leukocidin (PVL)が陽性だった。感受性検査ではPC, STに耐性。ST耐性のMSSAは本邦ではまれだが、アフリカ諸国ではSTが安価なために使用頻度が高く、ST耐性になりやすい。

「元氣な若い患者に生じる再発性皮膚感染症ではPVL陽性市中感染型MRSAが多いが、MSSAでもみられるということがわかった。今後も注目していこうと思う」。

競走馬から感染したT.equinumによるケルスス禿瘡

第867回日本皮膚科学会東京地方会から(平成28年7月9日)

馬事専門学校生に生じたケルスス禿瘡の症例。Trichophyton equinumが検出された。T. equinumは1972年に外国馬によって持ち込まれ、その後、日本の競走馬に広がったが、ヒトへの感染はまれ。最近の動物糸状菌感染症の問題点は、1) T. equinum感染が

競走馬に蔓延しており、M. canisもときに病馬から分離される。2) 牛のT. verrucosum感染は全国的で、集団発生が認められている。3) 犬・猫のM. canis感染も全国的で、発生症例数も増加し、保菌状態の動物も認められる。4) ラットではT. mentagrophytes感染が実験動物舎で蔓延し、対策に苦慮している。5) 豚では本邦での存在が知られていなかったM. nanumの感染が認められた。

「家畜飼育を営む患者がいない都会で経験することはほとんどなさそうだが、地域によっては問題となることもあるだろう。開業医も鏡検だけではなく、あやしい症例では培養を行う必要がある」。

隆鼻のためのヒアルロン酸注入による視力障害

第867回日本皮膚科学会東京地方会から(平成28年7月9日)

隆鼻目的に鼻背部にヒアルロン酸の注入を施行後、鼻尖部の皮膚壊疽を生じた。同時に視力低下が出現。注入したヒアルロン酸による小動脈の閉塞が脈絡膜に及んだために生じた視力障害と考えられる。

「これはコワイ。失明に至った症例もあるらしい。美容を含め形成外科領域は、解剖学の理解がいかに重要なのかを知る機会になった」。

トリビア (trivia) = 3を意味するtriと十道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」。そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

浅井俊弥

Asai, Toshiya

浅井皮膚科クリニック

(〒240-0013 横浜市保土ヶ谷区帷子町1-14)

ホームページアドレス:

<http://www.asai-hifuka.com>

ニキビが多発するApert症候群と ニキビができないLaron症候群

第34回日本美容皮膚科学会総会から (平成28年8月7日)

Apert(アペール)症候群は、頭蓋骨や顔面骨の形成異常と合指(趾)症をきたす常染色体優性遺伝性疾患で、fibroblast growth factor receptor 2 (FGFR2) をコードする遺伝子変異で生じる。皮膚には9歳頃から重症のニキビが生じ、顔面、体幹のほか前腕などにも生じることがある。Laron症候群は、成長ホルモン(GH) 不応性の低身長をきたす常染色体劣性遺伝性疾患で、GH受容体の構造異常やそれ以降の情報伝達の異常により、insulin-like growth factor I (IGF-I) の合成障害で生じる。ニキビができないことが観察されていて、IGF-Iを投与するとニキビができるようになる。

「皮膚の発生に関連するgrowth factorとニキビに関連しているようだ。初めて聞いた症候群で、勉強になった」。

真皮上層の弾性線維の減少と膠原線維の増加が認められた。

「汗管腫はよい治療がなくて困るので、一度試してみようと思う」。

ニキビ瘢痕にはアクトシン 外用が有効かも

第34回日本美容皮膚科学会総会から (平成28年8月7日)

複数の患者の複数の部位を対象として、ハーフサイドに1日1回、就前にアクトシン軟膏を1カ月間外用し、陥凹面積の変化を無治療部と比較した。外用を行った部位の改善率は20.0%、無治療部では2.5%であり、有効だった。副作用はなし。

「痤疮瘢痕にはフラクショナルレーザーがよさそうで、紹介することもあったが、その前に試してみてもいいかと思う治療だった」。

汗管腫にアダパレン外用が 有効かも

第34回日本美容皮膚科学会総会から (平成28年8月7日)

汗管腫にアダパレン外用が有効だった症例。1日1回の外用1カ月後に結節は縮小傾向で、扁平化し、夏季の増悪もなかった。病理組織学的には、腫瘍細胞巣が小型化し、

